

I. 導入

おはようございます。そして、創立記念おめでとうございます。今日、私たちは OIC の 38 年の働きをお祝いいたします。長年来ていらっしゃる方も、今日初めてという方も、今日ともにお祝いできることをうれしく思います。この 38 年の間、ここ OIC ではたくさんの方々が礼拝をささげてきました。時の初めから、主がご計画と目的をもってこのような恵みを与えてくださったことに感謝いたします。

詩篇 139:16b で、ダビデ王は神をたたえてこう言っています。「わたしの日々はあなたの書にすべて記されている。まだその一日も造られないうちから。」神はダビデの人生にご計画を持っておられました。神は OIC にもご計画を持ってくださっています。神はアルファでありオメガであるお方、初めと終わりのお方です。そして、歴史の中でご自身の目的を成就しておられます。イザヤ 46:10 で神はこうおっしゃいます。「わたしは初めから既に、先のことを告げ／まだ成らないことを、既に昔から約束しておいた。わたしの計画は必ず成り／わたしは望むことをすべて実行する。」



私たちの主なる神は、天地の創造主です。そして、黙っておられるお方ではなく、多くの方法で私たちに語られます。とくに、みことばを通して語ってくださいます。では、コリント第二 5:17-20 を読んで、今朝神が私たちに何を語っておられるか見てみましょう。

II. 聖書朗読 コリント第二 5:17-20

5:17 だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。5:18 これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。5:19 つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。5:20 ですから、神がわたしたちを通して勧めておられるので、わたしたちはキリストの使者の務めを果たしています。キリストに代わってお願いします。神と和解させていただきなさい。5:21 罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちはその方によって神の義を得ることができたのです。

III. 教え

キリストにある者は皆主にあって新しくされた者です。新しいというのは、心の内なる変化や、目に見える生き方の変化を含みます。イエスを信じる信仰によって、私たちは新しくされます。私たちは天の父との和解を得、神の子として神の家族に迎え入れられます。私た



ちがイエスを信じて罪を悔い改め、罪の赦しを乞い求め、イエスを人生の主として受け入れるなら、この救いの賜物を受けます。そして、祈りや信徒同士の交わり、みことばの学びを継続していく中で、神との関係を築いていきます。



イエス・キリストと歩んでいくと、私たちはこの世の人々に対してキリストの使者となります。個人としても、クリスチャン全体としても、私

たちは神の御国の代表者となる役割に召されています。また、「**神と和解させていただきなさい**」(コリント第二 5:20b) と人々に勧める役目に召されています。これは、神からすべての人へのメッセージです。そのメッセージは、教会、つまり私たちをとおして与えられます。私たちが教会だからです。救いの喜びを体験した人は誰でも、その喜びを他の人と分かち合いたいと思います。そういうわけで、イエス・キリストを信じる信仰によって「**神と和解させていただきなさい**」と、家族や友人、隣人たちに呼びかけます。

どこの国も国の代表として大使や使者を他国に送ります。主権者なる神は知恵をもって、これと似たことをしてくださいました。墮落し失われた世の中に、私たちが神の使者として送ってくださったのです。国を代表する使者たちと同様、私たちが送られた先で、送ってくださった方を示すことが使命です。イエスに従う者である私たちに、使命やメッセージを自分勝手に創作する自由はありません。むしろ、神のメッセージを忠実に伝え、与えられた使命を果たすことが私たちの役割です。



では、コリント第二 5:18 を見てみましょう。「**これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。**」この箇所は、私たちの働きが神から与えられたものであることを示しています。それは、「**和解のために奉仕する**」ことです。他の聖書箇所も、私たちの使命について教えてくれます。例えば、これは世界に向けた働きであるということです。神がすべての人を愛しておられるからです。また、伝道と弟子作りが中心の働きです。イエスの名を告げ知らせ、神に喜んでいただけるような生き方をできるようお手伝いするものです。しかしここで、パウロは大宣教命令を和解のための奉仕と表現しています。これは、神の御心について多くを教えてくれます。

和解のための奉仕は、神との和解に人を招くことで始まりますが、それで終わりではありません。それは、家族、友人、国々の和解のための奉仕でもあります。神と和解させていただきなさい、そして、お互いに和解しなさい、というものです。キリストの愛の中で、私たちは和をもって生きるすべを身につけます。聖書から、また私たちの心のうちに住まわれる聖霊から、和解への道を学びます。人間関係にひびが入ったり、壊れたりしたとき、それが家族間であろうと、友人、同僚、国や民族の間であろうと、和解が必要になります。



しかし、多くの人は和解の仕方がわからないようです。ですから、私たちはその方法を示さなければなりません。みことばはこの必要を満たしています。例えば創世記 33 章には、長年いがみ合っていた双子の兄弟ヤコブとエサウの話が載っています。ヤコブは故郷へ帰ろうとしましたが、エサウは 400 人の軍を率いて彼を迎えました。ヤコブはたいそう恐れましたが、神は和解を約束されました。それでヤコブはしもべとたくさんの贈り物を先に送って、エサウの心をなだめようとしてしました。創世記 33:11 には、ふたりが出会ったときのヤコブの言葉が記されています。「**どうか、持参しました贈り物をお納めください。神がわたしに恵みをお与えになったので、わたしは何でも持っていますから。**」ヤコブがしきりに勧めたので、エサウは受け取った。」エサウが贈り物を受け取ったことから、その日兄弟が和解したことがわかります。



もうひとつの和解の例は、ヨセフと兄弟たちの話です。ヨセフの兄たちは、ヨセフを妬んでいました。それで、ヨセフをエジプトに奴隷として売ってしまいました。しかし、神はヨセフを成功させてくださり、ヨセフはやがてエジプトでファラオに次ぐ支配者となりました。年月が流れ、イスラエルに飢きんがおこりました。ヨセフの兄たちは食料を買いにエジプトにやってきました。そこでは、ヨセフは兄たちより権力のある者でしたから、昔されたことに対する復讐をすることもできました。投獄したり、処刑したりできたのです。しかしヨセフはそうせず、兄たちを赦して和解しました。創世記 45:15 「**ヨセフは兄弟たち皆に口づけし、彼らを抱いて泣**



いた。その後、兄弟たちはヨセフと語り合った。」

一番よく知られている和解の例として、放蕩息子の話があります。下の息子は父に遺産を生前分与してくれるよう頼み、それを持って遠くへ行き、遊びに使い果たしてしまいました。ある日、彼は自分の愚かさに気づき、家に帰って父にこう言いました。(ルカ 15:21)「お父さん、わたしは天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。」息子は、身分の低い召使になる覚悟でした。しかし、父は喜んで祝宴を開き、息子に豪華な服を着せました。いなくなった息子が見つかったからです。息子の指には指輪がはめられました。これは、息子の立場を取り戻したことを意味します。



これらの話は、告白、謝罪、悔い改め、赦し、回復について語ります。人間関係が壊れた時にどのように和解すればよいのかを示す模範です。しかし、そこにはさらに深い意味が込められています。これらの話は、人間誰もが天の父なる神、創造主との和解を必要としていることを語ります。

神は天地を創造され、私たちもお創りになりました。神が人間を造られたのは、愛し愛される関係を持つためです。しかし、私たちの罪が私たちを神から引き離し、また人間同士の間も裂きました。イザヤ 53:6 にあるとおりです。「わたしたちは羊の群れ／道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。」イザヤの預言がそこで終わりなら、望みもありませんが、預言者イザヤは続けてこう言います。「そのわたしたちの罪をすべて／主は彼に負わせられた。」ここで、預言者イザヤは来たるべき救い主、私たちの主イエス・キリストのことを語っています。私たちの罪の罰をご自身が担うことで、イエスは罪の赦しを可能にし、私たちが神と和解できる道を開いてくださったのです。



来たるべきメシアについてのこの預言は、その 700 年後に成就しました。イエスがこの世に来てくださり、十字架への長く孤独な道のりを歩んでくださった時です。この十字架で、イエスはご自身の命を私たちの罪の代価として捧げてくださいました。十字架のおかげで、私たちは罪の赦しを受け、神との関係を回復させていただけます。この救いは神から私たちへの賜物です。自分の罪を告白し、イエスを信じる信仰によって神のもとへ来る者すべてに与えられる賜物です。ヤコブとヨセフの話や放蕩息子のたとえは、和解を求める上での模範を示してくれます。しかし、イエスの十字架上の死によって、真の和解は成立するのです。というのも、この世の罪に対する代価としてイエスの死が神に受け入れられたからです。

ヨハネ 19:30 には、和解の働きが完成した瞬間が記録されています。「イエスは、このぶどう酒を受けると、『成し遂げられた』と言い、頭を垂れて息を引き取られた。」イエスを信じると、私たちの罪は赦され、神と和解させられます。そして、墮落して失われた世に和解のメッセージを宣べ伝える働きに加わるよう召されます。コリント第二 5:20「ですから、神がわたしたちを通して勧めておられるので、わたしたちはキリストの使者の務めを果たしています。キリストに代わってお願いします。神と和解させていただきなさい。」私たちは、墮落して失われた世に送り出された使者です。キリストを指し示し、このお方の和解のメッセージを告げ知らせるのです。



ところで、大使に会いたいと思ったらどこにいきますか。大使館ではないでしょうか。例えば、カナダ大使に会いたいと思ったら、東京のカナダ大使館に行けばよいでしょう。キリストの使者として、私たちは外に出て人と出会い、その場で福音を分かち合おうとします。けれども、イエスのことを少しでも聞いたことのある人が、私たちを探しに来られることもあります。



そういうわけで、教会が地域社会に存在を示すのは大切です。本当の意味での教会は建物ではありません。本当の教会は、信徒の集まりです。しかし、教会の建物や毎週決まった礼拝の時間があることは、教会の存在を目に見える形で知らせるという重要な役割を果たします。それによって、神の御国についての真理を求める人々がキリストの使者を探していくべき場所がわかるためです。

OIC は会堂を所有していません。しかし、礼拝の場所や時間を公に知らせることで、大阪に38年間存在し続けていることを示してきました。38年間、OIC は大阪の人々がキリストの使者と会い、神の御国について学べる場所として仕えてきました。今、私たちには広くて雰囲気の良い素晴らしい場所が与えられています。大阪クリスチャンセンターで集うことで、近隣の人々に存在を示せますし、人を誘いやすくなります。大使館が祖国の代表として、目に見える形でその国との接点を提供するのと同様、建物があることで、神の教会が大阪の人々を歓迎していることを目に見える形で示しています。



しかし、私たちの友人、同僚、隣人や家族は、教会がここにあることを知っているでしょうか。キリストの使者である私たちは、どこでもイエスの福音を分かち合うことに努めたいものです。同時に、もし誰かが後にイエスに興味を持った際、行くべき場所がわかるようにもしておきたいと思えます。大使は常に、大使館や領事館の場所を知らせるようにしています。私たちも、教会の場所を人に知らせ、いつでも歓迎であることを相手に伝える必要があります。誘っても最初は来てくれないかもしれません。けれども、人生の意義や目的を探す気になったら、きっと来てくれるでしょう。

ミカ書 6:8 には、人生の目的がこのように記されています。「人よ、何が善であり／主が何を前にお求めておられるかは／お前に告げられている。正義を行い、慈しみを愛し／へりくだって神と共に歩むこと、これである。」人の存在意義は、神と共に歩むことです。そして、イエス・キリストとの愛の絆のうちにそうすることができます。



今年、OIC では特別な目標を掲げています。この目標について5月6日に初めて皆さんにお話しました。覚えていらっしゃるでしょうか。「神の栄光のために、この会堂をいっぱいにして。」また、具体的な祈りもお分かちしました。「具体的に私の祈りは、私たちが愛と伝道の心において成長し、2013年3月31日のイースター礼拝が始まる午前10時には、この会堂が神をたたえ主イエスの復活を感謝する人でいっぱいになっていることです。」

この目標を5月に皆さんにお話してから、夏にかけて礼拝出席者数が減少したので、私は少しがっかりしました。けれども、この一カ月ほどまた出席者数が増えてきたことを知り、励まされました。とは言え、感情ではなく信仰によって歩みたいと思っています。がっかりしたり励まされたりという感情の起伏があろうと、イエスを信じる信仰による神との和解の福音を伝えるという私たちの使命は変わりません。キリストの使者として、私たちは世の人々に「神と和解させていただきなさい」と勧めるのです。

会堂をいっぱいにするという私たちの目標も、和解のための奉仕の重要な一部となり得ます。というのも、教会に来ることは、イエスについて学び、イエスを信じる信仰によって神と和解する良い方法のひとつだからです。たいていの場合、その過程は祈りから始まります。

さて、今日私は自分の祈りのカードを持ってきました。皆さんは持っていますか。持っていない方は、受付付近のインフォメーションラックにありますので、どうぞお持ち帰りください。改めてお勧めします。2013年のイースター礼拝にOICに来てほしいと思う人の名前



をこのカードに書き込んで、その人たちのために祈ってください。イエスのことをまだ知らない家族や友人でしょうか。以前 OIC に来ていたけれど、長い間来ておらず、改めて誘う必要のある人でしょうか。

カードに名前を書き込んだ人たちがイースターにここに来れるよう祈りましょう。でも、イースターの一週間前まで誘わないで放っておいてはいけません。今から通常の礼拝に誘いましょう。または、来週土曜日から始まるアルファコースやスモールグループのどれかに誘いましょう。長い間会ってないなら、食事に誘って久しぶりに話をするだけでもいいかもしれません。クリスマスもすぐにやってきます。クリスマスは人を教会に誘うには絶好のチャンスです。神の御国の大胆な使者となりましょう。そうすれば、福音を分かち合い、人を励ます方法がわかってくるでしょう。そうすることで、人々が神との和解を得、家族や友人、隣人との和解もできますように。

IV. 結び

イエスのもとに来て神との和解を得るようという招きはすべての人に対して与えられています。また、私たちが大切な人たちに示せる最高の愛情表現は、イエスを紹介することです。マタイ 22 章で、モーセの律法の学者はイエスを試そうとしました。その問いとイエスの答えを見てみましょう。マタイ 22:36-39 「22:36 「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」 22:37 イエスは言われた。『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』 22:38 これが最も重要な第一の掟である。22:39 第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』」

キリストの使者として仕え、人々がイエスに出会えるよう招くとき、私たちは両方の掟を全うしていることとなります。神が私たちに与えてくださった使命と働きに忠実であることは、神への愛をあらわします。また、キリストの愛を人々と分かち合おうと努めることは、隣人への愛をあらわします。主が私たちに日々知恵と恵み、力と勇気を与えてくださり、和解のための奉仕に邁進できますように。では祈りましょう。

V. 祈りましょう